

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

文中の付表に掲載している計数は、それぞれを原則四捨五入しております。また、金額が損失または減益の場合には、△を付しております。

平成21年11月13日

## 平成21年度第2四半期決算発表

三井住友フィナンシャルグループの平成21年度第2四半期決算についてご説明致します。

お手元には、「平成22年3月期第2四半期決算短信」と「平成21年度第2四半期決算説明資料」の2種類の資料をお配りしております。

それでは、決算内容について「平成21年度第2四半期決算説明資料」に基づいてご説明いたします。

### 【三井住友銀行の単体業績】

まず、1頁をご覧ください。三井住友銀行の単体損益についてご説明申し上げます。

表の中ほど22行目の（一般貸倒引当金繰入前）業務純益は、前年同期比△8億円の3,776億円と、ほぼ前年同期並の水準を確保しました。

このうち、1行目に記載の業務粗利益は、

昨年の政策金利引下げに伴う流動性預金収益の減少等の減益要因に加え、マクロ経済環境の低迷を反映し外為関連収益や投資銀行ビジネス収益等の減少があったものの、金利動向を的確にとらえたオペレーションの実施による債券関係損益の増加や、大企業・海外取引を中心とする貸出金利鞘の改善等の効果もあり、前年同期比157億円減益の、7,193億円となりました。

一方、18行目の経費につきましては、厳しい経営環境を踏まえ、一段と抑制的な運営を行ったことから、前年同期比149億円減少の3,417億円となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		21年中間期	20年中間期比	20年中間期
業 務 粗 利 益	1	7,193	△ 157	7,350
経 費 ( 除 く 臨 時 処 理 分 )	18	△ 3,417	149	△ 3,566
業 務 純 益 ( 一 般 貸 倒 引 当 金 繰 入 前 )	22	3,776	△ 8	3,784
う ち 国 債 等 債 券 損 益	26	389	434	△ 45

次に、臨時損益に移ります。

28行目の不良債権処理額に24行目の一般貸倒引当金繰入額及び38行目の償却債権取立益を加えた与信関係費用は、43行目に記載しております通り、前年同期比672億円減少の1,569億円となりました。

これは、信用保証協会による緊急保証等の政府の景気対策効果に加え、取引先の状況に応じたきめ細かな対応に取り組んできた成果や、海外マーケットの状況改善等によるものであります。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		21年中間期	20年中間期比	20年中間期
一 般 貸 倒 引 当 金 繰 入 額	24	476	513	△ 37
臨 時 損 益	27	△ 2,782	△ 256	△ 2,526
不 良 債 権 処 理 額	28	△ 2,046	158	△ 2,204
特 別 損 益	35	△ 20	△ 8	△ 12
う ち 償 却 債 権 取 立 益	38	1	1	0
与 信 関 係 費 用 ( 24 + 28 + 38 )	43	△ 1,569	672	△ 2,241

29行目の株式等損益につきましては、32行目の償却が国内株式等を中心に407億円発生したことから368億円の損失となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		21年中間期	20年中間期比	20年中間期
株 式 等 損 益	29	△ 368	△ 196	△ 172
株 式 等 売 却 益	30	42	△ 12	54
株 式 等 売 却 損	31	△ 3	3	△ 6
株 式 等 償 却	32	△ 407	△ 187	△ 220

以上により、34行目の経常利益は、前年同期比250億円増益の1,471億円となりました。

41行目の税効果会計による法人税等調整額は、税引前純利益の計上等に伴い、108億円の会計上の費用となっております。

以上の結果、42行目の中間純利益は、前年同期比で322億円増益の1,126億円となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		21年中間期	20年中間期比	20年中間期
経常利益	34	1,471	250	1,221
法人税、住民税及び事業税	40	△ 217	△ 145	△ 72
法人税等調整額	41	△ 108	225	△ 333
中間純利益	42	1,126	322	804

【三井住友フィナンシャルグループの連結業績】

次ページには三井住友フィナンシャルグループの連結損益の内訳をお示ししております。

先程申し上げました三井住友銀行の増益を主因と致しまして、16行目の経常利益は前年同期比313億円増益の2,222億円、24行目の中間純利益は前年同期比403億円増益の1,235億円となりました。

[三井住友フィナンシャルグループ連結]

(金額単位 億円)

		21年中間期	20年中間期比	20年中間期
連結粗利益	1	10,660	△ 21	10,681
営業経費	7	△ 5,330	60	△ 5,390
不良債権処理額	8	△ 2,690	340	△ 3,030
株式等損益	13	△ 89	109	△ 198
持分法による投資損益	14	△ 200	△ 139	△ 61
その他	15	△ 128	△ 36	△ 92
経常利益	16	2,222	313	1,909
中間純利益	24	1,235	403	832
与信関係費用	25	△ 2,685	336	△ 3,021

【有価証券評価損益】

次に有価証券の評価損益についてご説明致しますので、4頁をご覧ください。

中段に三井住友銀行単体の有価証券評価損益を取り纏めております。表中の「その他有価証券」の評価損益は、株式は4,960億円のプラス、債券は555億円のプラス、その他は121億円のプラスとなり、全体では5,636億円のプラスとなりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		21年9月末		
		評価損益		
		21年3月末比	評価益	評価損
その他有価証券	5,636	6,064	7,561	△ 1,925
株式	4,960	5,126	6,268	△ 1,308
債券	555	568	560	△ 5
その他	121	370	733	△ 612

## 【B I S 自己資本比率】

7頁には、連結自己資本比率について、お示ししております。

21年9月末の連結自己資本比率は速報値で13.13%となりました。

21年3月末比ではTier Iが6月に実施した公募増資により増加したことを主因に1.66%上昇しております。

### 【三井住友フィナンシャルグループ連結】

(単位 %)

	21年9月末	21年3月末	
	[速報値]	21年3月末比	21年3月末
連結自己資本比率(第一基準)	13.13	1.66	11.47
Tier I比率	9.55	1.33	8.22

## 【不良債権の状況】

次に不良債権の状況についてご説明致します。

8頁をご覧ください。

表の左下でございます、金融再生法に基づく開示債権残高の合計額につきましては、21年3月末比477億円増加の1兆2,419億円となりました。

また、正常債権を含めた与信合計に対する比率は21年3月末比0.12%上昇致しましたが、1.90%と引続き低い水準を維持しております。

### 【三井住友銀行単体】

(金額単位 億円)

	21年9月末	21年3月末	
		21年3月末比	21年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,890	△ 306	3,196
危険債権	7,672	889	6,783
要管理債権	1,857	△ 106	1,963
合計(A)	12,419	477	11,942
正常債権	642,422	△ 17,863	660,285
総計(B)	654,841	△ 17,386	672,227
不良債権比率(A/B)	1.90%	0.12%	1.78%

## 【21年度業績予想】

続きまして、平成21年度の業績予想について、説明資料の20頁をご覧ください。

まず、1株当たり配当予想をご覧ください。

後程申し上げます通期の連結業績予想に大きな変動が無いことから、平成21年度の普通株式1株当たり年間配当予想は、5月予想通りの90円とさせていただきたいと存じます。

[三井住友フィナンシャルグループ単体]

1株当たり配当予想

(金額単位 円)

	21年度		20年度実績
	中間	年間(予想)	年間
普通株式	45	90	90

<ご参考>

(金額単位 億円)

配当金総額	510	1,020	812
-------	-----	-------	-----

尚、優先株式についても期初予想通り所定の金額を配当させて頂く予定であります。

上段の持株会社であります三井住友フィナンシャルグループ単体の21年度業績予想は、一部見直しを行い、5月予想対比減益となる、

営業収益 1,300億円、  
 営業利益 1,150億円、  
 経常利益 950億円、  
 当期純利益 800億円、

と致します。

次に、中段の連結業績予想であります。後程申し上げます、三井住友銀行は予想比増益となりますが、他の子会社・関連会社の一部で予想比減益となるところもあり、

経常利益は、5月予想比200億円減益の 4,900億円、  
 当期純利益は、5月予想通りの 2,200億円、

を見込んでおります。

その下の三井住友銀行単体の業績予想につきましては、与信関係費用が、21年度上期の実績を踏まえ、5月の公表業績予想比で減少する見込であることから、

業務純益は、5月予想通りの 7,500億円、  
 経常利益は、5月予想比200億円増益の 3,300億円、  
 当期純利益は、5月予想比200億円増益の 2,000億円、  
 与信関係費用は、5月予想比400億円減少の△3,400億円、

を見込んでおります。

【平成21年度の経営方針と中間期実績】

次の21頁には、上段に21年度の経営方針と戦略施策を、  
 下段に平成21年度中間期業績の概要及び戦略施策の進捗について記載しております。

上段にあります通り、当社グループでは、平成21年度を「基本原則に則った業務運営の徹底により、守りを固めつつ、着実な成長を目指す」年と位置付け、グループ各社の基盤となる業務において「経費」「クレジットコスト」

「リスクアセット」の3つのコントロールを意識した業務運営を徹底するとともに、中長期的な成長の実現に向け、「グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現」と「成長事業領域の強化」に取り組んでおります。

その結果、下段にお示ししております通り、3つのコントロールを意識した業務運営の徹底等により、三井住友フィナンシャルグループの連結中間純利益は、三井住友銀行における堅調な業務純益やクレジットコストの減少を主因に、業績予想比で335億円増益の1,235億円となりました。

また、財務体質の強化として、本年7月に本邦金融機関最大の普通株増資を完了し、資本の質・量の両面における拡充を進めた他、成長事業領域の強化を図るべく、本年10月に日興コーディアル証券を三井住友銀行の完全子会社として迎え入れました。今後は、日興コーディアル証券をグループの証券戦略の中核と位置づけ、商業銀行のもつ顧客基盤、安定性・安心感と、日興コーディアル証券の専門性の高いサービスとを融合させた、新たな「複合金融」ビジネスを創造してまいります。

21年度下期につきましても、引続き不透明な経営環境が続きますが、基本原則に則った業務運営を継続的に強化するとともに、持続的な成長の実現に向けた施策についても着実に取り組んでまいります。

以上で説明を終わらせていただきます。

以 上